

大型のガザミ（稚ガニ）

■大型のガザミの稚ガニ

先月に続き、今月もイシガレイを採集することはできなかった。水門付近でガザミの稚ガニを5匹採集した（Fig.1）。甲幅は3.5cm, 4.0cm ×2, 5.0cm, 5.5cmであった。2011年以降の調査で、ガザミの稚ガニを採集したのは2014年の8月からである。この間採集した稚ガニは8月採集の個体では甲幅5.0cmが最大で、多くは甲幅0.5cm～2.5cm程度であった。また、9月に採集した個体でも甲幅5.0cmが最大であった。過去のデータと比較すると、今年の稚ガニは大型であると考えられる。

また、採集した稚ガニの腹節（一般にフンドシと呼ばれることが多い）は全て幅の狭い雄の形態であった（Fig.2）。「ガザミは小型のうちは雌雄共に、フンドシが細く雄のような形状の可能性がある」と以前ご教示いただいた（レポートNo.191参照）。甲幅5cm前後のうちは、腹節は狭い雄のような形状なのであろう。

■漂着物につくエボシガイ

潟湖内に、木枠が漂着していた。観察すると多くのエボシガイが付着していた（Fig.3 4）。エボシガイは流木などの漂流物に付着して生活し、世界中の海洋に分布している。これらの個体も広い海を漂った後、蒲生干潟にたどり着いたのかもしれない。



(Fig.1 ガザミの稚ガニ)



(Fig.2 甲幅5.5cmの稚ガニ)



(Fig.3 エボシガイ)



(Fig.4 エボシガイ)